

平成 30 年 2 月 8 日  
東北電力株式会社

女川原子力発電所 2 号炉 指摘事項に対する回答一覧表  
(運転停止中原子炉における燃料損傷防止対策)

No	分類	項目	審査 会合日	回答
1	指摘 事項	注水だけで除熱ができることを定量的に説明すること。	H27. 3. 17	格納容器圧力が炉心損傷前ベントの基準に到達する時間を評価し、原子炉補機代替冷却水系による崩壊熱除去機能復旧の時間余裕が十分確保されていることを確認した。(資料 1 - 1 - 4 にて本日回答)
2	指摘 事項	POS 選定の考え方について、圧力容器の開放の有無及びそれに伴う影響を含めて整理して説明すること。	H27. 3. 17	「RHR切替時の冷却材流出」は、発生時の検知が他の作業等よりも困難な事象であること及び検知性の観点で厳しいPOSを選定することが適切であることを踏まえ、POS「B」を選定した。(資料 1 - 1 - 4 にて本日回答)
3	指摘 事項	制御棒誤引抜以外を選定しなかった理由を説明すること。	H27. 3. 17	「燃料の誤装荷」、「制御棒を複数引き抜く試験」、「過去に発生した反応度投入事例」について、発生の有無及び投入される反応度の観点から、「制御棒の誤引き抜き」(制御棒の連続引き抜き)を重要事故シーケンスとして選定した。(資料 1 - 1 - 4 にて本日回答)
4	指摘 事項	燃料エンタルピーを保守的に評価するため、出力分布やピーキングファクターが保守的になるように制御棒パターンや炉心燃焼度が選定されていることを説明すること。また、 $\beta_{eff}$ 、ドップラー反応度、初期出力等については、不確かさ評価を説明すること。	H27. 3. 17	燃料エンタルピーを厳しく評価するため、局所ピーキング及び引抜制御棒値を保守的な設定としている。また、 $\beta_{eff}$ 、ドップラ反動度及び初期出力等について不確かさ評価を行い、影響が小さいことを確認した。(資料 1 - 1 - 4 にて本日回答)

No	分類	項目	審査 会合日	回答
5	指摘 事項	反応度誤投入の事象選定について、過去に実際に発生した制御棒引き抜け事象を選定しなかった理由を説明すること。	H27.3.17	No.3と合わせて回答